きずな

文化財保護センターだより

第13号　平成７年７月１日

財団法人　岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町１（岐阜総合庁舎内）　TEL 058-264-1111(代)
FAX 058-264-0343

●もくじ

カラー　高畑遺跡の発掘現場から……1
提　言　環境解析資料の整理・保存を…2
組　織　平成７年度役職員・事業計画…3
調　査　徳山ダム関連調査、高畑遺跡…4
調　査　丹生川ダム関連調査…5
報　告　県下発掘調査報告会…6
トピックス　戸入村平遺跡の磨石…7
記　録　センター日誌……8

高畑（たかばた）遺跡の発掘現場から

揖斐郡池田町の高畑・二ノ井遺跡は、古墳時代から白鳳時代の遺物や遺構の発見が期待される遺跡です。５月10日に発掘調査始め式を終え、現在発掘作業の真っ最中です。上の写真は、発掘作業を始めるにあたって、作業員さんたちに調査員がこの遺跡から出土した土器や瓦を説明し、一緒に学習しているところです。発掘作業は見えない遺物等を土の中から検出することが中心になりますので、どんな遺物の出土が予想されるか等、事前の学習はとても重要です。

環境解析資料の整理・保存を

岐阜大学教育学部
地学教室
教授　梶田澄雄

発掘の際に地形・地質を見て欲しいと何度か招ばれていますので、考古学とはまるで縁が無いとも言えず、請われるままに感想みたいなものを書くことになりました。

緊急発掘の連続で、そこまでやれるかということは承知のうえで勝手なことを書こうと思います。

もともと発掘とは地下に埋まった物を掘り出す行為ですから、遺跡面の上・下の地層は邪魔者であるかもしれません。

教科書的にいえば、本来浸食の場である陸地、しかも人間の住みやすい小高い平場で地層が積もるということは只事ではなく、それなりの理由がある筈です。

居住跡がそこにあるということは、住みやすいから住んだのでしょうし、住みにくくなったから廃棄したのでしょう。

前者については、当時の生活様態により合った条件の地形・環境が選ばれたことは当然のことで、遺跡・遺物の解析により生活様態が再現でき、当時の広域的な地形・環境も復元されれば、フィードバックしあって生き生きとした復元が可能になります。

廃棄の原因については、天災・人災などのアクシデントによる場合には、それなりの物証がある場合があります。イタリアのポンペイの遺跡などはその最たるものでしょう。

環境の変化が廃棄の主な原因であることが近年花粉分析を中心とした「環境考古学」の立場から主張されています。人間の行為が直接の原因になった変化も、地球的規模の気候変化によるものも知られています。

「地震考古学」の提唱もされています。広域火山灰による編年、放射性同位元素による年代測定は常識になっています。その他プラントオパールなど続々と新しい観点や分析手法が開発されてきています。

これらの環境の変化を示す資料は遺跡および、その上・下の地層中に含まれています。岐阜県文化財保護センターが独自でこれらの新しい視点や武器を駆使することは現在では絶望的でしょう。

しかし、それに耐える資料を採集・整理・保存し、環境解析の際に系統的に選び出せるようにすることは条件がそろえば可能と思います。

そのためには、遺跡および遺物包含層を含めた上・下の地層の状態を正確に判断する能力と適切なサンプリング方法の習得および整理・管理能力が必要となります。

ただでさえ忙しい現スタッフにこれらを要求するのは酷でしょう。それなりの教育を受けた実績のある研究者の参加が必要です。ある程度の分析を業者に任せることは、今までもやってきたことですが、片手間ではなく、目的意識をもった専任者が必要なことを強調します。

せいぜい一日ぐらいの見学で、遺跡の成立・廃棄とほとんど関係のない地形・地質を報告書の体裁を整えるためだけに書くのは気持ちの良いものではありません。わずかに残された地層断面からではなくて、発掘の初期の段階から自分の手で掘ってみなければ本当の姿は見えて来ません。例えばミミズ・シロアリなどの生物の攪乱による層位の乱れなどは読み取れません。ぴったりつながる石器の破片が上下32cmも離れて出てきたこともあります。また、礫の多い堆積物の分布から当時の自然水路を復元したこともあります。

人の残した物だけでなく、自然の残した物にも貴重な考古学上の情報が隠されている筈です。

平成７年度の組織

（平成７年６月現在）

●役　員

会　長	梶原　拓（岐阜県知事）
副会長	篠田　伸夫（岐阜県副知事）
理事長	吉田　豊
副理事長	相撲　正一（岐阜県教育委員会事務局参与）
参　与	島塚　定男
専務理事	河合　周治
理　事	浅野　勇（岐阜県市長会会長）
理　事	清水　敏郎（岐阜県町村会会長）
理　事	後藤左右吉（岐阜県都市教育長会会長）
理　事	平野　敬（岐阜県町村教育長会会長）
理　事	大野　政雄（岐阜県文化財保護審議会会長）
理　事	高井　正文（岐阜県総務部長）
理　事	国井　隆（岐阜県農政部長）
理　事	葛城幸一郎（岐阜県土木部長）
理　事	白木　昇（岐阜県開発企業局長）
理　事	大宮　義章（岐阜県教育委員会教育長）
理　事	本田　修也（岐阜県教育委員会事務局指導部長）
理　事	清水　廣美（岐阜県博物館長）
監　事	藤田　幸也（岐阜県出納長）
監　事	芝田　政之（岐阜県教育委員会事務局管理部長）

●職　員

理事長		吉田　豊	
副理事長		相撲　正一	
参　与		島塚　定男	
専務理事兼事務局長		河合　周治	
総務部	部　長	山崎　春夫	
	課　長	平林　哲男	
	主　査	渡辺　紀和	主　任　田中　康宏
	事務嘱託	岩谷　美里	事務補助　高橋　律子
調査部	部　長	白井　進	
	次　長	北洞　勝臣	
第１課	課　長	小木曽文和	
	課長補佐	市原　輝明・安江　祥司	
	学芸主事	佐野　康雄・大橋　弘志・稲川　威・村瀬　泰啓	
		藤田　英博・小淵　忠志・三輪　晃三	
第２課	課　長	武藤　貞昭	
	課長補佐	河村　一彦・早野　壽人	
	学芸主事	千藤　克彦・松野　晶信・長屋　幸二・小野木　学	
第３課	課　長	中島　康夫	
	課長補佐	篠田　通弘・片桐　隆彦・飯沼　暢康・竹中　一秋	
		小谷　和彦	
	学芸主事	堀田　一浩・小塩　康真・春日井　恒・大知　正枝	
飛騨出張所	所　長	伊藤　秀雄	
	課長補佐	上嶋　善治・上原　真昭・谷口　和人	
	調査員	野村　宗作	事務嘱託　政井　美子

平成７年度の事業計画

事業名	原因者	調査地	遺跡名	時代等
徳山ダム建設関連工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	水資源開発公団 徳山ダム建設所	揖斐郡藤橋村 徳山地区	上原遺跡 寺屋敷遺跡 塚遺跡 上開田村平遺跡	縄文時代の集落跡 旧石器・縄文・中世寺院跡 縄文時代の集落跡 縄文時代の集落跡
国道156号改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	建設省 岐阜国道工事事務所	美濃市松森	下市上遺跡	古墳～奈良時代の遺物散布地
東海環状自動車道建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成		関市広見		範囲確認試掘調査
ＶＲテクノジャパン建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土地開発公社	各務原市須衛町	船山北古墳群	古墳・古窯等
ソフトピアジャパン建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査		大垣市今宿	今宿遺跡	弥生・古墳・中世の遺物散布地
関テクノハイランド建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成		関市下有知		範囲確認試掘調査
緑が丘苗畑跡地利用事業予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成		美濃加茂市 緑が丘	牧野小山遺跡	縄文～古墳・中世の集落跡 範囲確認試掘調査
岐阜環状線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土木部 岐阜土木事務所	岐阜市長良堀田	堀田城之内遺跡	縄文・古墳・中世の集落跡
県道岐阜関ヶ原線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土木部 揖斐土木事務所	揖斐郡池田町 片山	高畑遺跡 二ノ井遺跡	弥生・古墳・飛鳥時代の遺物散布地
県道多治見犬山線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土木部 多治見土木事務所	多治見市 北小木町	北小木大谷洞 29・30号古窯	中世の古窯
丹生川ダム建設関連工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県 宮川上流河川工事事務所	大野郡丹生川村 折敷地	西田遺跡 牛垣内遺跡 カクシクレ遺跡	縄文時代の集落跡 縄文時代の遺物散布地 縄文時代の遺物散布地

発掘調査状況

本年度の発掘調査のうち次の３遺跡では、調査の安全と成功を願って、関係諸機関のご出席をいただき、調査始め式を実施しました。‡４月28日：カクシクレ遺跡（丹生川村）‡５月10日：上原・寺屋敷遺跡（藤橋村）：高畑・二ノ井遺跡（池田町）

上原遺跡での調査始め式

■徳山ダム関連発掘調査（揖斐郡藤橋村）

昭和61年度から岐阜県教育委員会が調査を始め、平成３年度から当センターが引き継いだ徳山ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、今年で10年目を迎えます。これまでに13遺跡約39,000m²の現地調査を終え、縄文時代を中心に東海・北陸・関東・関西の接点としての徳山を特徴づける貴重な遺構・遺物を多数検出してきました。

◆上原遺跡

旧徳山村本郷集落から約1.5km揖斐川本流をさかのぼった右岸段丘上にあり、遺跡面積は徳山地区で最大の遺跡です。

平成２～６年度までに下流側の第２地点を中心に調査が終了し、縄文時代前期から晩期にかけての集落遺跡であることが判明しました。また、高位段丘上にある第３地点の調査では、縄文時代晩期の土器を中心に遺物が出土しています。

今年度は、第３地点の調査範囲を拡大し、遺跡の性格の解明を図るとともに、中位段丘上にある上流側の第１地点の調査を始める予定です。

◆寺屋敷遺跡

旧徳山村山手集落から約１km上流の揖斐川本流と磯谷の合流地点に突き出た尾根の先端にあります。古くから、「寺屋敷」という伝承があり、尾根が人為的に削られていました。

平成５・６年度の調査では、平安時代後期の礎石建物跡を検出したのを始め、縄文時代早期の遺構面からは竪穴住居跡を、旧石器時代の遺構面からは石器の集中箇所を検出しました。

今年度の調査では、縄文時代と旧石器時代の遺構面の調査を山側に拡大し、全容の解明に努める予定です。

■高畑・二ノ井遺跡（揖斐郡池田町）

この遺跡は池田町片山にあり、県道岐阜関ヶ原線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査です。本年度は高畑遺跡と二ノ井遺跡の一部を調査します。

◆高畑遺跡

本年２月、側溝工事中に白鳳時代（７世紀末～８世紀初頭）の瓦が発見され、遺跡としての発見届が出されています。その後の試掘調査では、古墳時代後期の層と白鳳時代の層という２つの時期の遺構面が確認されています。

白鳳時代の層からは、礎石建物跡と思われる遺構の一部が、またその近くから瓦を伴う溝状遺構が検出されました。礎石建物跡は南北に長いようですし、溝状遺構は幅２mで南北に一つにつながるようです。

高畑遺跡の調査

今年度はその全容を明らかにするとともに、古墳時代の層に住居跡などが残されていないか調査します。

遺物は、弥生時代後期に属する高坏・器台・鉢や、古墳時代の土師器の甕（宇田型甕）それに白

鳳時代の桶巻き作りの丸瓦と平瓦約400点、一枚作りの軒平瓦・須恵器・土師器です。溝状遺構から出土した丸瓦は、3枚が重なった状態で検出され、屋根からずり落ちたとも考えられます。

◆二ノ井遺跡

調査範囲内の地表面からは、これまでに縄文土器、石器、弥生土器、白鳳期の瓦、土師器、須恵器、中近世陶器などが採集されています。そこで調査は一部を掘り下げ、遺構・遺物の広がりを確認しながら進める予定です。

■丹生川ダム関連発掘調査（大野郡丹生川村）

大野郡丹生川村折敷地五味原地区で実施している丹生川ダム建設に伴う発掘調査は、今年度で3年目を迎えました。

本年度は、昨年度に引き続いて行われる牛垣内遺跡のほかに、新たにカクシクレ遺跡を調査します。また、西田遺跡の整理作業も行います。

◆カクシクレ遺跡

調査範囲内の荒城川左岸の段丘上にあります。縄文時代晩期の遺跡として知られており、石刀・石剣・石冠・御物石器・独鈷石・磨製石斧等が出土しています。

試掘調査により、以前から知られていた地点とは別に、さらに西方で新たに遺跡の広がりを確認しています。発掘調査面積は、A地点2,400㎡、B地点1,000㎡、C地点3,000㎡の予定です。

カクシクレ遺跡の調査

◆牛垣内遺跡

荒城川に流れ込む谷によって形成された扇状地状の地形に立地する約4,600㎡の遺跡です。昨年度は北西の2,500㎡を調査しました。

その結果、縄文時代後晩期の土器や石器を中心に約4万点の遺物が出土しました。さらに、平安時代の竪穴住居跡が1軒検出され、この住居跡から墨書土器が出土しました。

今年度は、南東の2,100㎡を調査します。調査予定地では、縄文時代早期の押型文土器や、同じく中期の土器などがすでに出土しています。これらの時期の遺構検出を期待しています。

発掘作業に携わって

原石は長峰峠を越え、信州（長野県）から運ばれて来たという。どんな人が運び、何と交換されたのだろう。貴重品である。加工は、下呂石やチャートで経験を積んだ父に限られ、子どもたちは尊敬の目で父の手元を見ていただろう。小さな黒曜石の石鏃に遠い昔が浮かぶ。

土器の文様は実用とは無縁のものであるだけに、そこに今も変わらぬ遊び心と芸術の始まりを感じる。より紐や縄巻き円棒を用いた押型文にまじって、魚骨文（？）とも見える文様土器が出る。作業員の顔が集まる。少人数であることは、こういうとき都合がよかった。

磨製石斧が多く出た。「打製は土掘り、磨製は木材加工」という説がある。原生樹林の中で、飛騨の匠の祖形が培われていたと考えるのは楽しい。凹石、すり石も多かった。クリ、トチとともに、外皮の堅い野生のヒエを粉にし「飛騨そば」「飛騨だんご」の原型が芽生えていたのかもしれない。小さな炉跡に火を囲む家族とその会話を想像しながら一服。

多彩な職を退いた人々が作業員の殆どである。仕事ぶりや雑談の中に、それぞれの年齢の厚みが伺え、密かに学び取ることも多かった。昨年の牛垣内遺跡の発掘。記録的な猛暑と石の多い面での作業は大変だったが、谷から時々吹き上げる涼風が疲れをいやしてくれた。

牛垣内遺跡発掘作業員

岐阜県下発掘調査報告会

さる5月1日、平成6年度に県下で実施された発掘調査の報告会が、岐阜県教育委員会の主催で開かれました。県下の埋蔵文化財発掘調査は昨年度、22市町村55遺跡で実施されており、こうした調査の成果などの情報交換の場として今回で3回目。県内外の考古学関係者・一般の方など116名の参加者は、報告者の説明や苦労話に熱心に耳を傾けておられました。要旨は次の通りです。

◆荒尾南遺跡（大垣市桧町）

(財)岐阜県文化財保護センター　　千藤克彦 氏

沖積平野の低湿地遺跡。弥生～古墳時代の方形周溝墓5基を検出。弥生前期の遠賀川系土器、後終末期の線刻絵画土器や田下駄、弥生時代前期・中期初頭・後期～古墳時代初頭の土器、木製品が大量に出土。河川跡からは杭列が出土。地震痕と思われる切断された杭が数例みられた。

◆米野遺跡（大垣市米野町）

大垣市教育委員会　　高田康成 氏

古墳時代初頭に掘られた溝を検出し、この溝内より、弧帯文の入った木製品や鳥形木製品を含む多量の木製品・木材が出土。また、溝内および周辺からは古墳時代初頭前後の完形の土師器が多量に出土した。

◆池奥遺跡・仲坂遺跡（美濃加茂市蜂屋町）

美濃加茂市教育委員会　　可児光生 氏

池奥遺跡では7世紀後半の横穴式石室をもつ古墳6基、10世紀後半の遺構を検出。1号墳では、「美濃国」の刻印がある須恵器が出土。

仲坂遺跡では6世紀前半の横穴式石室をもつ古墳1基を検出。土器より2回の追葬が行われたものと思われる。石材には地元産出の安山岩が用いられた。

◆江馬氏城館跡下館跡（吉城郡神岡町）

神岡町教育委員会　　大平愛子 氏

中世から戦国時代に飛騨地方で力をもった江馬氏の下館跡の堀の調査をした。館を囲む三方の堀のうち南堀は造り替えられたことがわかった。出土遺物から、一応の生活地として存続していたが、堀は16世紀前葉に埋まり、その機能に大きな変化があったと考えられる。今後、館自体の変遷等も解明していく必要がある。

◆弥勒寺東遺跡（関市池尻）

関市教育委員会　　田中弘志 氏

国指定史跡「弥勒寺跡」の東側に隣接する区域の調査で、弥勒寺と同時代（8世紀）の礎石をもつ倉庫跡や、この建物と棟筋をそろえた建物群跡を検出した。これらは当時の役所「郡衙」に伴う正倉と考えられる。

本年度も継続して調査を行う。

◆小名田窯下古窯跡群（多治見市小名田町）

多治見市教育委員会　　山内伸浩 氏

戦国時代から江戸時代の古窯跡。戦国時代（16世紀）の大窯3基、江戸時代(17世紀後半～18世紀初）の連房式登窯2基、大窯に伴う作業場跡1か所検出。施釉陶器が多数出土。6号窯で焼成されたと考えられる白天目茶碗が3個体出土。窯跡の発掘調査での白天目茶碗は全国で初めて出土した。

◆飛瀬遺跡（武儀郡洞戸村）

(財)岐阜県文化財保護センター　　佐野康雄 氏

縄文時代・中世の集落遺跡。遺物は中世に属するものが80%を占める。一般の集落では出土例のない白磁の壺類等が検出されていることから一定の階層の人物、もしくは集落の存在が想定される。縄文時代の遺物では早期前半に属する押型文土器石斧とともに、いわゆる表裏縄文土器が出土した。

発掘調査報告会

トピックス

戸入村平遺跡出土の磨石

縄文時代の石器というと、精巧に作られた石鏃（矢じり）や、鋭利な刃物のような石器が思い浮かびます。一方、河原にある丸い石をそのまま使用した石器もあります。こうした石器の一種に磨石があります。磨石は表面にすり減ったあとがある石器です。

縄文時代中期～晩期（今から2300～4000年前）の集落遺跡である藤橋村（旧徳山村）の戸入村平遺跡では、たくさんの磨石が出土しました。発掘現場から持ち帰ったこの石器を観察すると、同じ磨石の中にもいろいろな種類のあることがわかりました。

磨石を分別すると……

戸入村平遺跡から出土した磨石には、大きく3種類の磨面をもつものがありました。

A：丸みをもった石の表面をそのまま磨面としたもの

B：石をたたいてできた平らな面を磨面としたもの

C：作り方はBと同じだが、磨面の中央部が凹んでいるもの

また、Aのものは次の3つに細分できます。（図1）A_1は片面または両面全体が磨面のものA_2は片面の一部分のみに磨面があるもの、A_3は石全体の表面が磨面になっているものです。

BとCは、石の長い方の側面に磨面がありますが、CはBよりも細長い石を使用しているものが多くあります。

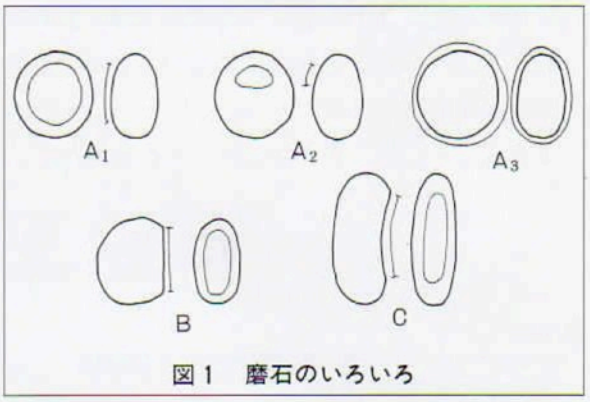


図1　磨石のいろいろ

磨石は、ものをすりつぶすのに用いられ、石皿（丸い偏平な大型の石で中央部に凹みやすったあとのある石器）とセットで使用されたと考えられています。

戸入村平遺跡で出土した石皿には、中央部が凹んだもの（図2－1）と平らなもの（図2－2）の2種類があります。これらの石皿と磨石の組み合わせを考えると、凹んだ石皿にはA_1の磨石が、平らな石皿にはBの磨石が合いますが、他のA_2・A_3・Cの磨石は、石皿とセットで使用されたとは思えません。特にCは、砥石のように物を研ぐか、何かを削ったりする使い方をしないと中央部が凹んだ磨面はできません。

磨石は、石皿で物をすりつぶす以外に、皮をなめしたり、木器や石棒などを作る時にも用いられたと考えられます。なお、ここでBに分類したものの中にも、Cの磨面ができる途中のものが含まれている可能性があります。

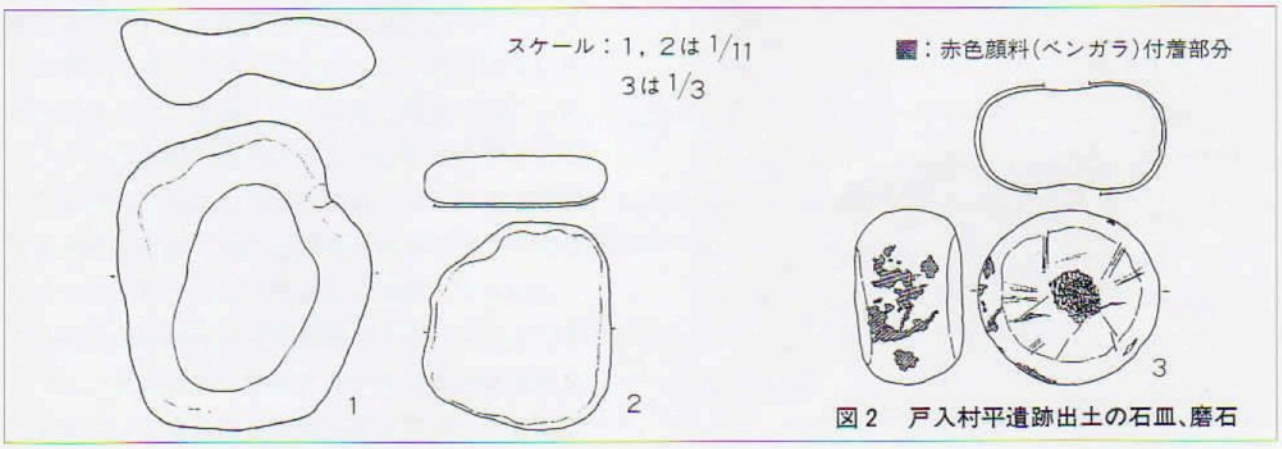


図2　戸入村平遺跡出土の石皿、磨石

顔料の付いた石も……

磨石の中には、赤色顔料の付着したものも出ています。（図２－３）この赤色顔料は分析の結果、ベンガラ（酸化鉄が主成分の顔料の一種）であるとわかり、ベンガラを粉状にすりつぶすのに使用されたと考えられます。

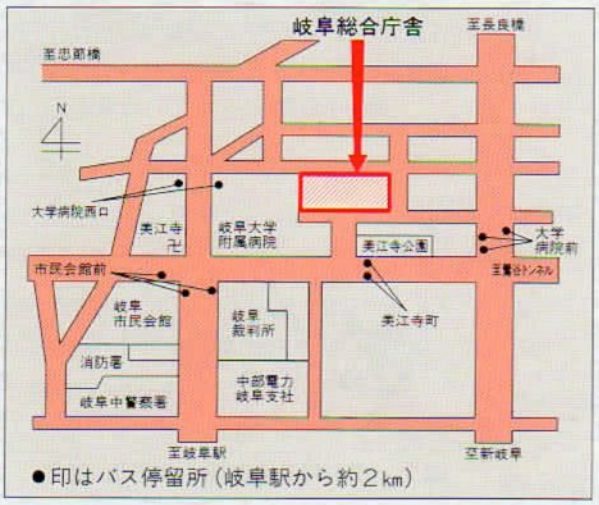
また、この石器の中央部に付けられた凹みは、作業のとき手に持ちやすいように付けられたものと考えられます。

以上、戸入村平遺跡の磨石から考えられることはわずかですが、今後も他の遺跡の同種の石器と比べ、この種類の石器の使用法を解明していきたいと思います。

センターだより

●日誌

2.14　金沢美術工芸大学小島教授、飛騨出張所にて指導調査
　　東白川村教育委員会高木氏、来所
　23　池田町高畑遺跡試掘調査開始
　26　岐阜市堀田城之内遺跡現地説明会開催187名参加
3．6　岐阜大学岩田教授、堀田城之内遺跡・今宿遺跡視察
　　長野県埋蔵文化財センター理事神村氏、飛騨出張所来所
　 7　岐阜大学井奈波助教授、船山北古墳群視察
　23　平成６年度理事会開催
　31　廣田副理事長以下９名転退職
4．3　副理事長以下20名当センターに赴任
　 6　調査部職員地山掘削・土止支保工主任者講習会参加
　11　今宿遺跡・各整理所作業再開
　20　全埋文協中部北陸ブロック連絡協議会総会（富山市）参加
　25　文化庁美術工芸課文化財調査官原田氏、穂積整理所・本部視察
　28　丹生川村カクシクレ遺跡調査始め式開催
5．1　「岐阜県下発掘調査報告会」岐阜総合庁舎にて開催116名参加
　 2　県下埋蔵文化財担当者会議、岐阜総合庁舎にて開催
　 8　美濃加茂市牧野小山遺跡試掘調査開始
　 9　各務原市文化課西村氏、船山北古墳群視察
　10　藤橋村上原遺跡・池田町高畑遺跡にて調査始め式開催
　16　会計検査院・水資源開発公団関係者25名、上原遺跡視察
　22　㈶岐阜県建設技術センター理事長清水氏、今宿遺跡視察
　24　東京都立大山田助教授、荒尾南・下巾上遺跡出土遺物整理指導に
　　穂積整理所来所。洞戸村教育委員会後藤氏、穂積整理所来訪
　26　堀田城之内遺跡、本年度調査再開
　29　各現場にて健康診断実施（６月２日まで）
6．1　当センター調査部長屋幸二、兵庫県教育委員会へ派遣
　 6　多治見市文化財保護センター田口氏、穂積整理所にて指導調査
　11　荒城小学校親子ふれあい体験学習100名、カクシクレ遺跡にて
　　体験発掘
　15　西関IC関連試掘調査開始
　26　理事会開催

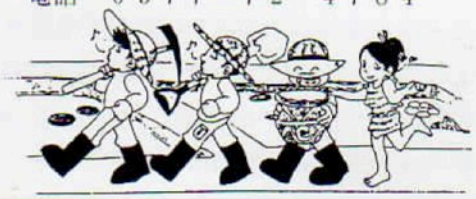


●印はバス停留所（岐阜駅から約２km）

タイムスリップ探検隊員募集中

親子で発掘体験をしてみませんか！

日時　平成７年８月９日㈬　小雨決行
場所　大野郡丹生川村
対象　岐阜県内の小学５・６年生と保護者
定員　50名
締切　７月14日㈮
申込　はがきに住所・氏名・保護者名・電話番号・学校名・学年を明記して次へ
〔宛て先〕
〒509-41 岐阜県吉城郡国府町広瀬町1285-2
㈶岐阜県文化財保護センター飛騨出張所
電話　０５７７－７２－４７８４



■編集後記

今回の巻頭言は、梶田澄雄先生に依頼しました。先生には仲追間遺跡（美濃加茂市）や船山北古墳群（各務原市）などに赴いていただき、ご指導を賜っております。遺跡面とその上・下の地層が物語る当時の生活環境とその変化の要因について今後ともご教示をいただきたいと考えております。

今年１月の阪神・淡路大震災で被災した兵庫県へ当センター職員・長屋幸二が、６月１日から派遣されております。埋蔵文化財発掘調査を通して復興事業に協力できることをうれしく思っています。また、一日も早い復興を祈念しております。